

地震、津波等災害に対する指針

1000年に一度の震災が発生。犠牲になった方へ謹んで哀悼の意を表し 被災地の一日も早い復興を祈念します。

津波警報、大津波警報、発令される警報レベルにより 避難場所を変更します。

保護者様には防災無線等にて、警報レベルを確認し、個別降園にご協力ください。警報発令時のバスは運行しません。

お願い・・・被災地では 津波の際は発生時の自分が所属する組織の避難方法で避難することが鉄則です。

「早くわが子を迎えに行きたい」の気持ちは良くわかりますが、保護者様がすぐに行動すると、「保護者様自身が津波被害に遭う」「交通渋滞」迎えにこられた保護者様の個別対応で園児全体の避難が遅延する等々リスクがあります。警報発令の場合は「まずご自身の安全を確保」して警報解除後にお迎えください。

横須賀市の津波サードマップは 2010.12月改定後、東日本大震災後も現在のところ変更はありません。

同マップに掲載されている地域は、浦賀、久里浜、芦名、佐島、長井地区のみ。いずれの場所も 津波は高くても2—5mと想定。宮城県、岩手県のような「津波=20~30m」を想像する方も少なくないと思いますが、三浦半島特に東京湾内で津波は高くなりにくいと予想されています。むしろ下記の報告②のように、土砂崩れ、洪水、武山断層による家屋の倒壊が懸念されます。報告②③では神奈川県で発生する地震は 東日本震災のようなプレート型地震ではなく、断層型地震と予想される。

(プレート型=大きな地下のプレート移動による地震。規模が大きくなる。断層型は断層付近のみが被害。直下型地震の場合、津波は発生しにくい)

被災地を訪れ、津波は到達までに時間があるので避難訓練により回避可能だが、地震は安全な家屋でなければ逃げることは不可能だ。地震発生時に安全な建物、場所にいることが第1。ご家庭でも棚の固定、避難路の確保をお願いします。

津久井幼稚園は園庭～園舎付近で 海拔12~14mです。(134号国道で海拔5m) 園舎は最新の耐震基準に適合しています。いずれにしても人命と安全を第一に考え 横須賀市その他関係機関の指導をいただき避難誘導を円滑に行うよう努力します。

報告①津久井に先祖代々在住の方より 関東大震災、大正12年9月1日(土)11:58、神奈川県相模湾北西沖80kmを震源として発生。マグニチュード7.9、の際津波発生 法蔵院の石段まで津波が来た 現在のような護岸も無いが法蔵院境内までは到達しなかった。現在の国道134号線は護岸のために海拔5mに設置された。三陸は太平洋に面していますがここは東京湾 その中でも波の被害のない金田湾内で安全な場所です。

報告②岩戸幼稚園：理事長様より 昨日、横須賀市市民安全部危機管理課の講演を聞いてきました。

まず三浦半島近郊でマグニチュード6.7~7.0程度の地震が今後10年間に起きる可能性は70%以上ある。

この地震は今回のようなプレート型地震ではなく、阪神淡路大震災のような断層型地震だそうです。また、東海大震災も同様以上の規模で、同様の確立で起きる可能性が高いそうです。

三浦半島は海岸の形態及び房総半島と伊豆半島のお陰で津波は高くなりにくいそうです。高くても10メートル程度と予想。むしろ横須賀市には山や崖が多く、土砂崩れの方が危険だとの忠告がありました。

報告③タウンニュースより 「三浦半島地震に備えを」三浦半島断層群を震源とする地震は活動

度が高いA級に分類される断層群。「武山断層帯」は30年以内の地震発生率が6~11%と評価されており、全国の断層の中でも三番目に確率が高い。茅野教幸三浦半島活断層調査会によると武山断層には三方向から圧力が加わっているが東日本大震災により一方の力が開放されアンバランスで危険な状態にあると指摘。同断層群が地震発生した場合、最大震度7が発生。この地震では09年にまとめられた県被害想定調査によると、死者4400人、家屋の全壊27万、半壊28万棟、交通機関、インフラのマヒ、火災発生も懸念。死者のうち3300人にあたる75%は建物被害が原因。

阪神大震災では90%の死者が家屋被害によるもの。

